



平成30年7月31日

川西町議会議長 加藤 俊一 殿

川西町議会新庁舎整備特別委員会  
委員長 金子 一郎

閉会中の所管事務調査先進地視察調査報告について

平成30年第1回川西町議会定例会において許可された所管事務調査（先進地視察調査）について、別紙のとおり報告します。

## 新庁舎整備特別委員会先進地視察報告書

1. 視察期日：平成 30 年 5 月 22 日（火）～23 日（水）
2. 視察地：新潟県刈羽村 / 新潟県長岡市 / 新潟県燕市
3. 視察目的：新庁舎建設に関する視察調査（主に議会棟について）
4. 参加者：委員長 金子一郎、副委員長 神村建二 委員 鈴木清左衛門、鈴木幸廣、伊藤 進  
（随行者）議会事務局 大友勝治事務局長補佐

未来創造室 有坂強志主幹

5. 視察地 1：刈羽村（人口 4,692 人（平成 29 年現在））

- ①視察地での対応者 村長 品田宏夫  
 議会議長 横田信子 事務局主幹 鈴木美貴子 事務局 品田明恵  
 総務課長 太田正純 総務課主任 佐藤陽介  
 生涯学習センター事務局長 平田晋一

日時：平成 30 年 5 月 22 日（水）13:00~15:00

## ②刈羽村新庁舎建設の取組みについて

- (1) 新庁舎の概要は以下の通りである

敷地面積：6,708 m<sup>2</sup> 建築面積：1,332 m<sup>2</sup> 延べ床面積：2,425 m<sup>2</sup> 規模：地上 2 階 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 コンセプト：ムダのないシンプルなつくり（建屋のムダ、仕事のムダを徹底的になくすためのコンサルタントを導入した。結果、床面積△25%とした）

- (2) 工事日程

平成 25 年 10 月新庁舎建設工事の着手、同 27 年 11 月工事完了同 28 年 2 月 1 日新庁舎で業務開始。

- (3) 事業費

総事業費は 16 億 900 万円であり、内建設にかかる工事費は 12 億 4000 万円。

- (4) 財源

庁舎新築に国の原子力災害対策施設整備費補助金を利用。補助金計 4 億 5000 万円

- (5) 議会棟の概要

- ・新庁舎は議場のある会議棟と行政部門が入る事務棟とが連結された構造になっている。会議室と事務棟は原子力災害の際にシャッターで仕切ることができ、会議棟部分は原子力災害時要援護者退避施設となる。

- ・会議棟の 2 階が議会の諸室で、議場・委員会室兼会議室、議長室、議員控室・議会図書室、議会事務局となっている。

- ・議場には作り付けの机や椅子は置かれてなく、レバー操作で出し入れできるキャスターを動かし

レイアウトを変更し、多目的利用としている。床はフラットにしている。

## 6. 視察地2：長岡市（人口27万3,000人（平成29年4月現在））

- ①視察地での対応者 市議会議長 丸山勝総  
 議会総務課長 水島正幸  
 市民協同推進部アオーレ交流課長 川合和志 同課員 小林智洋  
 平成30年5月23日（水）9:30~11:00

### ②長岡市の概要

新潟県のほぼ中央に位置し、平成17年から4回合併を繰返し10町村が新長岡市となり新潟県中越地域の中心都市となった（人口県内2位）。

### ③新庁舎建設の取組みについて

#### (1) 新庁舎の概要は以下の通りである

公共交通の利便性、コスト面、まちづくりの観点から中心市街地に移転することが最適との結論から、平成24年4月1日長岡駅前に複合公共施設「アオーレ長岡」がオープンした。当施設は市役所、議会、市民活動、アリーナの機能が整備されている。規模：建築面積：12,066㎡、延床面積：35,485㎡、地上4階、地下1階、鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）。設計：(株)限研吾建築都市設計事務所（アオーレの名前の由来は、長岡地域の方言で「会いましょう」を意味しさまざまな人と人、人とももの出会いが生まれるという期待が込められている）

#### (2) 議会棟の概要

議会関係諸室として、議場、傍聴席、第1委員会室、第2委員会室、応接室、第1会議室、第2会議室、議長室、副議長室、議会図書室、会派控室、議会事務局がある。

議場（1階）：に配置、形状は全体が見渡せる「円形すり鉢状」、理事者と対面するように質問席を設置、全席に個別スピーカーを設置。

傍聴席（2階）：一般傍聴席65席、車椅子2席、親子傍聴席は防音処理を施し児童・乳幼児同伴でも傍聴可能。

第1委員会室（4階）：全体を見渡せるよう議員席を扇形に配置。

第2委員会室（4階）：プロジェクターを設置し、各種会議に対応。

議長室（4階）：ナカドマ（屋根付き広場）に面し、市民のにぎわいが感じられる三方ガラス張りの空間、ナカドマを挟み東棟の市長室と向かい合う配置。

#### (3) 新庁舎建設コンセプト

4か所に分散していた庁舎機能を1か所にまとめ、防災拠点としての機能を備える。町民に親しま

れ、機能性、利便性の高い庁舎を目指すとした。

#### (4) 機能コンセプト

公と民のモザイク：行政と市民の活動が市松模様のように混ざり合う機能。

市役所機能をあえて駅前に分散配置し、まちなかの賑わいや回遊性を創出。

身近な手続きをワンフロアに集約。

行きやすい、案内しやすいワンストップサービス。

### 7. 視察地3：燕市（人口8万091人（平成30年3月現在））

①視察地での対応者 市議会議員 中山真二

総務部用地管理課参事 和歌浦進

都市整備部営繕建築課長 更科政博

都市整備部営繕建築課技師 佐野淳基

平成30年5月23日（水）13:30~15:00

#### ②燕市の概要

400年にわたり受け継がれてきた高度な技術を誇る金属加工産業のまちとして知られている。平成18年に燕市、吉田町、分水町が合併して新燕市としてスタートした。

#### ③新庁舎建設の取組みについて

##### (1) 新庁舎の概要

平成25年新庁舎竣工、敷地面積が35,932㎡で、庁舎棟と付帯施設棟、来庁舎及び職員駐車場で構成されている。庁舎棟は地上4階、延べ床面積11,443㎡、鉄筋コンクリート建てとなっている。防災拠点機能の強化の面から免震構造を採用し、地下に免震装置を配置した免震層がある。また、自然エネルギーを積極的に活用し、自然換気窓による自然通風と自然採光の促進を図っている。

##### (2) 議会棟の概要

議会部門の部屋の構成は、議場、委員会室、議員控室、会派室（7室）、会議室（2室）、正副議長室、図書室、議会事務局で構成されている。部屋の配置に当たって次の点に配慮している。

- ・議場及び議会関連諸室を4階に集約配置している。
- ・市民利用が多いエレベーターに近い場所に傍聴席入口を設けた。
- ・各部屋の壁を一部ガラス窓にし、自然光が入る明るい環境を創出した。
- ・会派室の内部間仕切りはスライディングとし、利用形態の柔軟性を考慮した。
- ・傍聴席は50席（うち車椅子対応2席）とした。

- ・演壇質問席、理事者席を配慮した。

### (3) 新庁舎建設コンセプト

市民が自然に集い、気軽にくつろげ交流することができる市民の「えん側」となるよう、市民同士、市民と行政の燕（えん）を結ぶ「4つのえん側」の立体的なつながりで一体感の醸成を図り、にぎわいのあるまちづくりの拠点となる庁舎の実現を目指した。

### (4) 機能コンセプト

#### 4つのえん側の機能

- ・ふれあいのえん（縁）側：庁舎南側の各階の待合スペースで交流の場
- ・にぎわいのえん（宴）側：まちづくり広場と隣接するウッドデッキスペース
- ・協働のえん（援）側：イベントに活用できる「つばめホール」
- ・まちのえん（燕）側：訪れる人をやさしく迎え入れるエントランス及び東側の屋根付き空間。

（総括）今回3か所の庁舎建設について視察を行い、共通して感じられることはシンプルでコンパクトな庁舎を目指していることであった。部屋数もそれぞれの議会に合ったものに設定されていた。議場は議員数によってレイアウトがそれぞれ異なり3者3様であったが、注目されたのは刈羽村の場合議場の床をフラットにし、机椅子は固定化しないで出入れ可能なキャスター付きとして、現場あわせで配置を決めていたことであった。これは自由度が高く効率的な使用が可能であり、本町においても十分に参考にできる方法と感じた。

以上